

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

ナットウエスト・グループ・ピーエルシー（証券コード：－）
（旧ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド・グループ・ピーエルシー）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的

ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（証券コード：－）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A+
格付の見通し	安定的

ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（証券コード：－）

【据置】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的
債券格付	A

■格付事由

- (1) ナットウエストは英国エディンバラを本拠とし、英国を主な事業基盤とする大手金融グループ。ナットウエスト・グループ・ピーエルシー（旧ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド・グループ・ピーエルシー）はグループ持株会社（NatWest）。ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（NatWest Bank）は英国リテールや商業銀行業務、ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（NatWest Markets）は投資銀行業務を担う子銀行。グループ信用力は「A+」相当とみている。これは、英国リテールの強固な事業基盤、新型コロナウイルス感染拡大の影響からやや劣化したものの引き続き健全な資産の質と堅固な資本基盤を維持していることなどを反映している。NatWest Bank の発行体格付はグループの中核子銀行であることからグループ信用力と同水準としている。NatWest の発行体格付は破綻処理時の損失を持株会社の債権者が重点的に吸収するシングル・ポイント・オブ・エントリーを採用していることから NatWest Bank の発行体格付から 1 ノッチ下としている。NatWest Markets の発行体格付は、グループ内での戦略的な重要性がリングフェンス内の銀行ほど高くないと JCR ではみておりグループ信用力から 1 ノッチ下としている。
- (2) 英国の 4 大銀行グループの一つであり、引き続き強固な事業基盤を維持している。事業セグメントは、リテールバンキング（RB）、コマーシャルバンキング（CB）、ナットウエストマーケッツ（NWM）など 7 部門から構成される。RB は英国のリテール銀行業務を主に個人に提供。20 年の英国における市場シェアは、個人口座数 16.3%、住宅ローン貸出残高は 10.9%と緩やかに上昇、使用頻度の高いデジタルバンキング利用者数は 940 万、モバイルアプリ利用者数は 770 万を保有している。CB は中小企業や大企業を対象に銀行業務を提供し、企業口座数は英国市場で 32%と高いシェアを有する。NWM は NatWest Markets を通じ投資銀行業務を提供。この他にも子銀行を通じプライベートバンキングやアイルランドでもリテール銀行を展開し主導的な地位を維持している。事業計画では、目標重視型の銀行への転換を図るとともにアイルランドからの段階的な撤退、NatWest Markets の事業基盤の再考など回復が遅れている事業の見直しを進めている。また、IT や AI を活用したデジタルバンキングを積極的に展開している。

- (3) 20/12 期のグループ連結の部門別総収益構成比は RB、CB、NWM が、それぞれ 39%、37%、10%と大半を占める。地域別では英国が 90%と集中している。業績は回復傾向にあったが、20/12 期は感染拡大の影響から、多額の貸倒引当金の繰入などから僅かながら税前損益が赤字となった。与信費用比率（貸倒引当金繰入額/顧客貸出）は 19/12 期の 0.2%から 20/12 期には 0.9%まで上昇。特に IFRS9 に基づくステージ 2 債権に対する貸倒引当金の繰入が大半を占めている。21/12 期第 1 四半期の業績は経済活動の一時的な制限などからその他収益が振るわず総収益は前年同期比 16%減少したが、税前利益は経費抑制や貸倒引当金が戻し入れに転じ同 82%の大幅増となった。主な事業基盤である英国経済は、ワクチン接種拡大による感染拡大の収束から予想以上に回復しており、当行グループによる債務返済猶予や政府保証融資など支援策終了後も大幅な追加引当金の計上が必要となる可能性は小さいと JCR ではみている。消費者行動の変化からモバイルバンキングなどでは競争がさらに強まっており、今後の業績に与える影響を注視していく。
- (4) 資産の質は改善傾向にあったが、感染拡大の影響からやや劣化している。20/12 期末の総資産は顧客貸付 45%、デリバティブ 21%、現預金など 16%、トレーディング資産 9%などから構成される。顧客貸付は地域別では約 9 割が英国に集中、産業別では個人住宅ローンが 5 割を占め、その他は分散されている。商業不動産は 5%、クレジットカード/消費者金融は 4%と小さく、住宅ローンと商業不動産の加重平均 LTV も 57%、48%と低位に抑えられている。大口与信の集中リスクも小さい。感染拡大の影響は、貸付残高に占めるステージ 3（不良債権比率）が 19/12 期末の 2.0%から 21/12 期第 1 四半期末には 1.6%まで低下したものの、ステージ 2 は 19/12 期末の 8.3%から 20/12 期末に 21.2%まで上昇し、21/12 期第 1 四半期末も 18.3%と幾分縮小したものの依然高水準にある。このほか、レベル 3 資産の保有は僅かであるほか、のれんも大半が英国事業である。デリバティブのネットポジションは僅かであり、主に顧客に対するリスクソリューションが中心である。トレーディング資産はリバースレポ、現金担保付のデリバティブ、さらには投資適格国債などで占められている。市場リスクも全体として低位に抑えられている。
- (5) 資本は引き続きリスク量対比で十分な厚みを有している。グループ連結普通株式等 Tier1（CET1）比率は 19/12 期末の 16.2%から 21/12 期第 1 四半期末は 18.2%まで上昇、他の大手英銀と比べても高水準にある。株主報酬などから利益による資本の蓄積には至っていないが、リスク性資産の大幅な削減が資本水準の上昇に寄与した。08 年と 09 年に政府から資本注入を受けたが、株式に転換され、NatWest は 15 年と 18 年に一部株式を買い戻している。21 年 3 月、5 月には 3、4 度目となる買い戻しが行われたが、依然政府が議決権ベースで 54.8%を保有している。政府は当初 24 年までに保有株を全て売却する方針であったが、感染拡大の影響を受け 26 年まで延期している。預貸率は 19/12 期末の 89%から 20/12 期末には貸付以上に預金が増加し 84%とやや低下した。市場からの調達も比較的少なく、引き続き潤沢な流動性を確保している。

(担当) 内藤 寿彦・宮尾 知浩・佐伯 春奈

■ 格付対象

発行体：ナットウエスト・グループ・ピーエルシー（NatWest Group plc）

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

発行体：ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー（National Westminster Bank Plc）

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A+	安定的

発行体：ナットウエスト・マーケッツ・ピーエルシー（NatWest Markets Plc）

【据置】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
Euroyen Fixed Rate Senior Notes Due 4 July 2022	417 億円	2019 年 7 月 4 日	2022 年 7 月 4 日	0.737%	A
Euroyen Fixed Rate Senior Notes Due 4 July 2024	83 億円	2019 年 7 月 4 日	2024 年 7 月 4 日	0.848%	A

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2021 年 5 月 18 日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：内藤 寿彦
主任格付アナリスト：内藤 寿彦
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014 年 1 月 6 日) として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014 年 11 月 7 日)、「銀行等」(2014 年 5 月 8 日)、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」(2019 年 3 月 29 日) として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) ナットウエスト・グループ・ピーエルシー
(NatWest Group plc)
ナショナル・ウエストミンスターバンク・ピーエルシー
(National Westminster Bank Plc)
ナットウエスト・マーケットツ・ピーエルシー
(NatWest Markets Plc)
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a) 項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル